

第5回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和6年8月27日（火）
開 会：10時
閉 会：11時05分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第1委員会室
3. 出席委員 清水 孝清 委員（委員長） ・ 飯田 一生 委員（副委員長）
吉本 トキコ 委員 ・ 藤元 晃一 委員
藤野 明美 委員 ・ 澤 一枝 委員
4. 欠席委員 田原 守人 委員
5. 出席職員
生活福祉部 高齢者福祉課長 野木 一伸
高齡者福祉課 高齡者福祉係長 岡 智美
企画振興部 農業振興課長 黒木 和彦
農業振興課 畜産振興係長 岩瀧 司
商工観光課 商工振興係長 定光 康江
環境建設部 都市整備課長 久保 隆治
都市整備課 建築係長 三吉 洋司
総務部（事務局） 行政管理課長 関 浩樹
行政管理課 行政管理係長 奥山 寿春
行政管理係主任主事 成相 隆弘
6. 会議次第 別紙のとおり

第5回庄原市行政評価委員会次第

令和6年8月27日（火）10：00 から
庄原市役所 5階 第1委員会室

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 評価意見の総括
 - （1） 庄原市ひとり暮らし高齢者等巡回相談事業
 - （2） 繁殖用和牛造成推進事業補助金
4. 評価意見の検討
 - （1） 楽笑座管理運営事業
 - （2） 危険建築物除却促進事業補助金
5. その他
6. 閉 会

会議経過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 評価意見の総括

(1) 庄原市ひとり暮らし高齢者等巡回相談事業

— 事務局より総括意見の説明 —

総括意見	評価：現行どおり
過疎化・少子高齢化により、高齢者と地域のつながりが希薄化するとともに、見守り等の地域における互助力に格差が生じつつあるなかで、本事業は高齢者の孤独死及び引きこもり防止、生活不安を解消するために必要性の高い事業と考えるため、現行どおりとすることについて、意見を求める。	

(2) 繁殖用和牛造成推進事業補助金

— 事務局より総括意見の説明 —

総括意見	評価：現行どおり
本市のブランドを牽引する比婆牛をはじめとした和牛の維持につながる本補助金の役割は大きく、今後も継続実施していく必要性がある。農家の高齢化、飼料価格の高騰と子牛価格の下落といった社会情勢の変化に応じつつ、農家数並びに繁殖雌牛頭数の維持に向け、本補助金も含め多面的な視点で農家への支援を検討いただきたい。	

4. 評価意見の検討

(1) 楽笑座管理運営事業

— 事務局より資料説明 —

委 員【①縮小】

楽笑座については、オープン当時はイベント等での活用はあったものの、当時よりテナントミックスについてはほぼ可能性もない現状下で、近年は集会施設の役割などにとどまっており、三軒茶屋など類似施設がある中で、今後の活用については難しいものがある。一方、建物については、耐震性等の観点や今後の維持費にかなりの費用が必要となり、今後検討が必要と思われる。

委員【②現行どおり】

市民会館等の類似施設が整備され、楽笑座でないといけない理由があまりないのであれば、今のような運営で問題ないと思う。「箱」としてだけ使うのであれば、今の予算は低予算であり、効率性もとても高い。ただ、今後は、他の施設との役割分担を考え、重複する部分があるのであれば、終了を視野にいれるか、もしくは、「箱」ではなく、「にぎわい創出」に特化するのであれば、民間に競争を促し、提案させ、すぐれた提案内容に対して予算を拡充した上、委託に出すべきだと思う。

委員【③終了】

事業目的の「賑わい創出」、「商店街の活性化」「テナントミックス」を含め、本事業は他の施設を利活用するなどにより整理されるべき事業と思います。

委員【④現行どおり】

歴史ある物を維持管理して行くのは大変なことではあると思いますが、大変申し訳ないのですが、名前と場所はなんとなくわかるのですが、入館した事はありません。この施設をどの位の方が利用されて、どの位の運営事業費が出されているのか、把握していませんので現行どおりにしました。

委員【⑤縮小】

庄原まちなかの他の施設との機能が重複し、楽笑座としての特異性が見いだせないのであれば、縮小に向けての検討も必要ではないか。施設維持管理も含め、民間事業者による運営が望まれる。

委員【⑥縮小】

当初の目的である、にぎわいと楽しみの場については代替性があること、テナントミックスに資する点では期待できないこと、施設は構造上の理由で安心を得られないようなので、事業継続の必要性は低いと感じる。

委員【⑦縮小】

庄原まちなかには、他に整備された施設もあり、楽笑座は設置から 19 年が経過し、快適な施設ではなくなっていることを考慮すると、事業縮小、あるいは終了の時期ではないかと考える。寄贈の建物であるため、慎重な判断も必要である為事業を縮小し、終了に向けての方策を考えられたい。

— 総括意見 —

委員長 「現行どおり」 とする。

(2) 危険建築物除却促進事業補助金

— 担当課より追加資料説明 —

委 員【①拡充】

人口減少が進む当市においては、年々空き家の件数が多くなっており、老朽危険建築物は増加するものと思える。一方、解体には所有者の負担が大きく、その着手には難しいものがある中で、市からの補助があることにより事業の推進が図られるものと思われる。本事業を実施している県内の市町と比較すると、補助率(額)は高くなく、補助金の財源等についても国からの交付金があるため、今後は本事業の拡充が必要と思われる。

委 員【②拡充】

人口減少による空き家問題は、緊急性がある課題である。今後も、空き家の増加は予想され、危険な空き家は増えるので、拡充すべき事業と考える。

委 員【③拡充】

- ・所得実態による補助率の設定を行う。
- ・国等の補助金が原資であるため、税金の滞納状態を明確にした上での、事業推進が必要では？
- ・補助対象案件ごとに、防災、衛生、景観の各項目ごとに、指数化し、実績評価を行われては？

委 員【④拡充】

今、日本各地でも問題になっています。危険建物管理は自己責任だと思うのですが、解体等の費用の支払いが難しく、放置してある建物が多くあります。私の住む町中でも数件の家が崩れている状態です。事故が起きなければと心配しています。景観の問題や危険性を考えると、事故が起きる前に市の方にも（対策はしておられるとは思いますが）何か対策を考えて頂きたいです。

委 員【⑤現行どおり】

自分の地域でも老朽化した危険な空き家を目にすることが増え、年々危険度を増しているように思える。相談件数や補助件数からも必要な事業であり、現行どおりとしましたが、解体に係る費用が高額なことからも補助金額の上限の検討も必要と思われる。

委 員【⑥拡充】

現在、老朽化した危険建物が増えている状況があり、除却に対する補助は、所有者にとって除却を思いつくキッカケになるため、事業の継続は必要。除却費用も高騰しているため、補助額の増額を検討していただきたいところだが、件数も増えていることから、引き続き広報活動等を積極的にされ、申請したい人が補助を受けられるよう、件数を増やすよう拡充をお願いしたい。

委 員【⑦拡充】

所管課の評価のとおり、市民の関心も高まり、該当の物件も増加しているため、認定件数の補助ができるよう拡充すべきである。また、本事業に該当しない空き家の課題についても、引き続き対応をお願いしたい。

— 総括意見 —

委員長 「拡充」 とする。

6. その他

— 事務局より事務連絡 —

7. 閉会